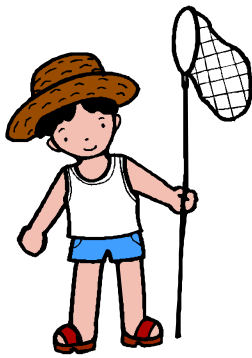


船橋市保育のあり方検討委員会

委員会だより

No. 6

平成 22 年 7 月 15 日発行



船橋市保育のあり方検討委員会事務局：船橋市保育計画課

〒273-8501 船橋市湊町 2-10-25

Tel 047-436-2410 Fax 047-436-2489

hoikukeikaku@city.funabashi.chiba.jp

平成 22 年 7 月 1 日（木）に第 6 回検討委員会が開催されました。

市からの資料説明の後、「保育所の環境整備と質の担保」「第 4 回～第 6 回意見交換の総括」等が討議され、下記のような意見が出されました。

保育所の環境整備と質の担保

- ・公立保育園の耐震化は子どもたちの命にかかわる問題なので、緊急性をもってしなければならない。
- ・公立保育園の耐震建替を民設で行うと、国の補助が受けられるので、資金的な面から見ると、納税者である船橋市民にとって一番良い方向ではないか。
- ・公立保育園の人件費は高いが、実績を積んだベテラン保育士が多いということで、そういう特質を生かした公の役割を担うべきだ。

第4回から第6回意見交換の総括

- ・子どもの育ちに焦点を合わせる必要がある、子どもにとって何が幸せかを、おとなは考えなくてはならない。
- ・市民目線で考えると、公平感という視点が非常に重要。そういう観点から、ますます財政的な制約がかかってくるので、市民の税金が子育て支援にどのように使われているかということを考えることが必要。
- ・一時保育については、私立保育園が増える中で対応していく。また利用しやすい制度を、行政と検討したい。
- ・保育所、幼稚園に限らず、家庭のあり方、母親の役割、父親の役割、そして、地域の役割というものについて、議論をする場が必要。

その他

- ・支援が必要な家庭に対して、どのような支援をしていくべきかを考えるとき、公立保育園の果たすべき役割や課題がある。
- ・公立保育園と同じ費用を私立保育園にかけるのであれば、例えば発達支援保育などに十分積極的に対応できる私立保育園もかなりあるので、もっと上手に私立保育園を利用してはどうか。
- ・公務員全体の定員が削減されると、当然保育職も同時に減ることが考えられ、現状の「保育の質」は将来的に同じように保てるか心配。そう考えると公立保育所の現状を変える民営化は、有力な選択肢として考えざるを得ない。
- ・保育は継続が非常に重要で、子どもの発達は大人との信頼関係でもたらされると保育指針にうたわれている。民間委託では、築かれた信頼関係が継続されず、子どもに与える影響は大きい。そうしたことに配慮して、丁寧に進めることが重要。

今回は最終的な総括の議論が交わされました。これを踏まえ、次回は一次報告をまとめる作業に入ります。

会議の開催日については、事務局にお問い合わせいただくか市ホームページをご覧ください。

☆☆☆ ご意見、ご感想をお待ちしています ☆☆☆